

日本の金融・資本市場の成長と国際競争力

(株)三菱東京UFJ銀行
常務取締役 事務・システム部門長
原沢 隆三郎



Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ

Agenda

1. はじめに
2. 国際金融センターとしての東京市場
3. なぜ日本の金融は変われなかったのか？
4. 今後の日本の金融・資本市場を取り巻くマクロ環境
5. 日本の金融・資本市場の競争力強化に向けた政策的取り組み
6. 日本の金融業界の役割
7. むすびにかえて

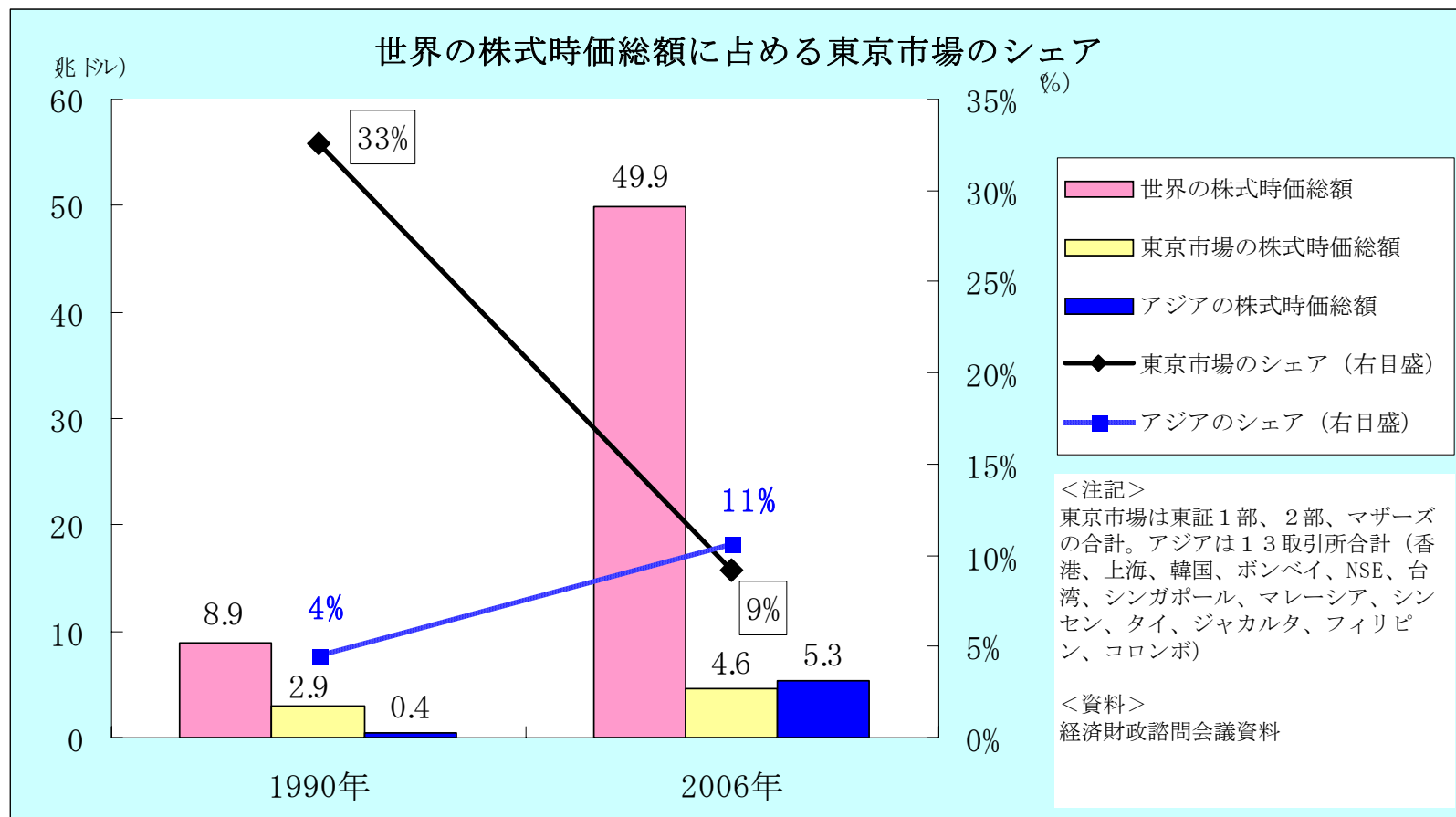
1. はじめに

- ◆ サービス産業とくに知識集約型の「金融」と「IT」が融合、今後の日本の持続的な経済成長を牽引する役割りを担う必要がある。
- ◆ 1,500兆円に及ぶ個人金融資産に多用な運用機会を提供し、内外の企業等に成長資金の供給を適切に行うためには、金融・資本市場の競争力強化が喫緊の課題。
- ◆ 東京がDomesticな金融センターにとどまるか、グローバルな国際金融センターとなりえるかの重大な岐路に立たされている。
- ◆ 証券取引所の世界的再編、金融センター間の競争激化を考慮すれば、過去の反省とともに、今後2～3年の間に官民を挙げた戦略的対応が必要。

2. 国際金融センターとしての東京市場

(1) 東京市場の現状 ①

◆ バブル崩壊とその後のデフレ長期化による景気低迷の中で、世界の金融・資本市場に占める東京市場のシェアは低下



2. 国際金融センターとしての東京市場

(1) 東京市場の現状 ②

- ◆ ロンドン、ニューヨークはもとより香港、シンガポールと比べても東京の国際金融センターとしての評価とは大きな格差

Ratings of Top 10 Financial Centers

	Rank	Rating
London	1	795
New York	2	786
Hong Kong	3	695
Singapore	4	675
Zurich	5	665
Frankfurt	6	642
Geneva	7	640
Chicago	8	637
Tokyo	9	628
Sydney	10	621

Note: The theoretical maximum rating is 1,000. Source: City of London (March 2008)

2. 国際金融センターとしての東京市場

(2) 競争力のある国際金融センターの「条件」

- ◆ 国際金融センターのCompetitive Factorのうち、“Availability of Skilled Personnel” “Regulatory Environment” “Access to International Financial Markets” が特に重要
(日本はそもそもビジネスの共通言語(英語)が通用しない国)

Survey by Corporation of London 2005

Factor of Competitiveness	Average Score
The Availability of Skilled Personnel	5.37
The Regulatory Environment	5.16
Access to International Financial Markets	5.08
The Availability of Business Infrastructure	5.01
Access to Customers	4.90
A Fair and Just Business Environment	4.67
Government Responsiveness	4.61
The Corporate Tax Regime	4.47
Operational Costs	4.38
Access to Suppliers of Professional Services	4.33
Quality of Life	4.30
Culture & Language	4.28
Quality/Availability of Commercial Property	4.04
The Personal Tax Regime	3.89

Source : Corporation of London

3. なぜ日本の金融は変われなかったのか？

【外部環境】

- ✓ 国富の安定成長
- ✓ 専門マンパワーの流入

【金融界】

- ✓ 金融立国の志
- ✓ 既得権の放棄

- 現状維持は後退という認識の共有
- 変革に伴うリスクの社会的な許容

【政治・行政】

- ✓ 金融・ITへの国家戦略
- ✓ 世界標準への戦略外交

【社会・国民性】

- ✓ 自己責任・自助努力
- ✓ 多様な卓越への敬意

4. 今後の日本の金融・資本市場を取り巻くマクロ環境

<1>グローバル化の進展とアジア地域の経済成長

- ◆「グローバル化」は生産性向上の原動力
- ◆中国・インドほかアジア地域が世界の経済成長を牽引
⇒2015年には中国が世界第2位の経済大国へ

<2>急速に進展する日本の少子高齢化・人口減少

- ◆先進各国の中で最も急ピッチで進む日本の高齢化
- ◆労働年齢人口の減少に伴う潜在成長率の低下

19年4月経済財政諮問会議 「成長力加速プログラム」

⇒ 今後5年間で労働生産性を50%伸ばす政策

5. 日本の金融・資本市場の競争力強化に向けた政策的取り組み

◆ 2007年12月：金融庁「金融・資本市場競争力強化プラン」

<4つの分野における総合的な取り組み>

- I. 信頼と活力のある市場の構築
- II. 金融サービス業の活力と競争を促すビジネス環境の整備
- III. よりよい規制環境(ベターレギュレーション)の実現
- IV. 市場をめぐる周辺環境の整備

◆ 2008年3月：金融商品取引法改正案国会提出(⇒6月6日成立) ⇒ プロ向け市場の整備と課徴金制度の見直しが柱

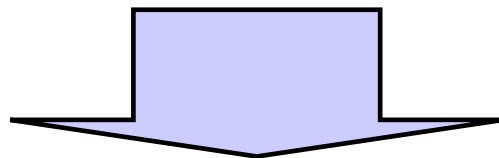
◆ 2008年4月：金融庁「決済システム強化推進室」設置 ⇒ 日本の資金・証券決済システム強化に向けた関係者の取り組み推進

6. 日本の金融業界の役割

(1) 日本の金融業界を取り巻く環境変化をとらえた対応

◆ バブル崩壊以降、20年近くに亘る景気低迷の時代

＜産業界＞新たな国際分業体制の構築や技術革新に注力
＜金融界＞金融イノベーションやグローバル展開が足踏み



◆ 「金融」と「IT」が融合するフィナンシャルテクノロジーの時代

- 日本のGDPの約75%を占めるサービス産業のうち経済波及効果が高い「金融」と「IT」の融合
⇒「モノづくり」に代わり今後の経済成長を牽引する役割
- 「異業種による従来型金融業の解体」の流れ

6. 日本の金融業界の役割

(2) 国際金融センターに相応しい新たな経済社会インフラの提供

顧客ニーズへの即応
× 法律・制度の「後追い」

「開かれた」インフラ
(相互運用性の追求)

我が国の新しい経済社会インフラをいかに提供するか

安全性・効率性
高い利便性

金融機関相互
の密接な協働

「グローバル・スタンダード」との整合性が一つのカギ

6. 日本の金融業界の役割

(2) 国際金融センターに相応しい新たな経済社会インフラの提供

安定性・効率性・利便性の高い決済システムの存在は
国際金融センターが備えるべき最も基本的な要件

【決済システム強化プロジェクト】

- ① JASDEC決済照合システム
✓ ISO20022/SWIFT Networkの導入
- ② 次期全銀システム
✓ 「汎用電文を提供するオープンな
社会インフラ」構築
✓ ISO20022導入の方向で最終調整中

【新しい決済事業分野】

- ① 電子記録債権
✓ 商流ファイナンス分野の活性化
- ② 排出権取引市場
✓ 東証での研究会立ち上げ
- ③ 東京市場におけるマルチ・
カレンシー決済

◆ アジア各国の金融・資本市場における法制・税制、会計制度等の制度インフラ面での「協調」も重要。

7. むすびにかえて

- ◆ 国内・海外双方の顧客ニーズに対応した、多様かつ高品質の金融サービス・社会インフラの提供こそが金融業界の責務。
- ◆ 日本が国際社会の中で引き続き活力を維持してゆくためには、日本とアジアひいては世界との新しい関係性の構築が重要。そのためにも、日本は再び国を開き（国際標準化の推進）、グローバル化を通じた国際的な共生力を養うことが必要。
- ◆ 活力のある日本社会をつくり、金融・資本市場の活性化を実現するためには、「現状維持は後退という認識の共有」と「変革に伴うリスクの社会的な許容」が必要。

ご清聴、ありがとうございました

本日の講演での意見や予測等は、講演者の私的見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、弊行はその正確性を保証するものではありません。また、当資料の一部または全部を問わず、弊行の許可なしに複製や再配布することを禁じます。